

JAAC だより

就職活動最前線レポート（1）

— “就職氷河期の再来” か・・・？ —

今年2010年の大学新卒者の就職内定率は73.1%（昨年2009年12月現在）で、前年比7.9ポイントのマイナスとなる過去最高の下落率を示し、就職氷河期の再来とも言われています。このような状況のなかで、引き続き大学に残るために大学院への進学を考えたり、また、あえて就職浪人となり専門的な資格を取得するための講座を受講したり、さらにはより専門性の高い技術と資格を得るために専門学校への入学を決めた学生の数は少なくありません。しかし、こうした学生が来年2011年春の就職を目指して就職活動を再開したとしても、来年は今年よりも景気が好転するという保証は一切ないのです。私は、今から約10年前の2000年ごろの“就職氷河期”と言われた時期を思い出しました。そこで、当時の状況と現在の状況とを検証してみたいと思い、当時を知る知人であり、また、人生の恩師でもあるお二人の元大学教授（現非常勤講師）の方々とお会いして、お話を伺う機会を得ることができました。その時に伺ったお話を皆さんとこの場を借りて共有したいと思います。

元N大学教授（現非常勤講師）のT先生は、『2000年ごろから2006年ごろまで続いた“就職氷河期”と、今年2010年の内定率の低さは、一見、同じような状況に見られるが、実は企業の求人姿勢と方針に大きな違いがあると思います』、と言われていました。2000年当時の企業は、いわゆる“バブルの付け”の後処理の状況で、採用する学生の数を絞らざるをえない状況だったわけです。ですから、文部科学省の調べによると、2000年（平成12年）の「就職率」は男性55%、女性57.1%と、男女を問わず4年制大学卒業生のおよそ半数が就職できなかったわけです。企業側は人材を採用したくても、できない状況にあったわけですね。この傾向は2006年くらいまで続きましたが、企業側としても極端に少ない新卒採用数により、企業内の就業年次による社員構成バランスが崩れ始めたことによって業務に支障が出る会社もあり、徐々に採用者数を増やし始めてきたわけです。そんな折にこの景気低迷に陥り、多くの企業は“採用者数を絞るのではなく、本当に必要な人材だけを確保する”という方針を打ち出してきています。したがって、2000年から2006年ごろまでの採用方針と今年の採用方針では異なる状況にあると思います。

また、元N女子短大教授（現非常勤講師）のO先生は、『当時は本当に厳しかった。2000年の短大卒生の就職率は女子57.4%、男子は41.3%で、昭和25年以降過去最悪でした』と、2000年当時を振り返りお話されました。一般的に女子は、短大卒生の方が4大卒生に比べて就職率が良いのですが、男女雇用均等法の施行や人材に求められる多様化したニーズなどによって、4大卒生の就職率も緩やかな上昇傾向を見せてきました。4大卒生の女子の就職率が男子のそれを上回る傾向になったのがちょうど2000年からなのです。同じく文部科学省の調べたデータによると、2006年の就職率は男子60.5%に対して、女子は68.1%と約8%上回っているのです。この傾向が理由かどうかわかりませんが、短大を卒業した女子学生が4年制大学へ編入する割合が増えてきています。さらには、日本の短大と単位互換協定を結ぶ海外（特にアメリカ）の特定提携大学への3年次編入を経て、海外の4年制大学卒業生として日本の企業に就職をする“Uターン留学生”の数も増えつつあります。

前出のT先生も、卒業を意図的に遅らせる考えを持つ学生が増えていることに着目しています。4年制大学に通う学生の中には、3年生に当たる年の1年間を休学して、海外への留学を計画する学生が増加していると言います。実際に留学をした学生からは、『留学経験が何らかの資格に匹敵しても良いくらい、素晴らしい経験をしたと思う。就職活動ではこの経験をアピールしたい』、という意見も出ています。しかしながら、単に学生時代に留学した、という経験だけでは厳しい就職活動を乗り切れるものではない、とT先生は安易な留学計画に警鐘を鳴らしています。確かに、大学在学中に留学をする学生の中には、この留学経験を就職に活かしたいと願っている人たちが多くいることなのでしょう。問題は、この留学で『何を学んできたか』ということです。T先生は、大学を休学して留学することができるのは文科系の学生であり、理科系の学生は卒業までのカリキュラムが固定化されていることと、多くの実験実習などがあることから、学部生の中に留学することは難しいのではないかと、とも言われています。また、就職時期を延ばす他の方法として、大学院への進学希望者が増えていることが挙げられます。前出の文部科学省の調べたデータによると、1995年（平成7年）を境に男子の大学院卒業生（修士課程）の就職率が男子4大卒生の就職率を上回っていることが分かります。特に、2000年以降は男子大学院卒業生の就職率は、男子4大卒生の就職率をほぼ毎年10%前後上回っているのです。このことも、大学院進学希望者数の増加に拍車をかけているのかもしれない。

※この続きは、次号の「就職活動最前線レポート（2）」において掲載いたします。 （カリフォルニア事務局： 照井）

カリフォルニア通信

(カリフォルニア担当：新井 康平)

【今年も春が近づきました】JAAC カリフォルニア事務局がある南カリフォルニアは地中海性気候に属していて、一年を通じて温暖で、降雨量も少ないのが特徴です。ところが、冬の時期である1月から3月までの平均降水量は日本の関東地方よりも多いのです。つい2月の下旬までは雨の日も多く、気温も肌寒く感じる日が続きましたが、最近では晴れた日の気温は少しずつ上がり、時には暑いと思う日もあるほどです。日本でも時々、春の陽気のような日があるようですが、ここアーバインの最低平均気温と最高平均気温は日本の関東地方のそれらの約2倍です。今のアーバインの最低平均気温は5℃～8℃前後、そして、最高平均気温は20℃前後で、日本に比べればとても暖かいです。やがて、短い春が南カリフォルニアを訪れ後は、暑い夏の太陽が南カリフォルニアの海と大地を照らし始め、本格的な夏の到来となります。今年もどうやら春がもうそこまで来ているようです。

新年を迎えて1ヶ月半が過ぎました。UCI のキャンパスはいつも通りの活気に満ちた学生達で溢れています。Mid-Term (中間) 試験の時期でもあり、いつもより勉強に励んでいる学生達の様子が窺えます。UCI の学生達が直面している問題の一つに“授業料の値上げ”があります。カリフォルニア州の財政難によるものでしょうか、年々、授業料が上がっていくのは学生と学生の親にとっては大きな悩みの種のようなのです。

今年の春も、日本から数校の大学生グループが短期英語研修を受けるためにUCI に来ています。彼らもやがて厳しい就職活動を経験することになるとは思いますが、ここUCI にいる間はカリフォルニアの素晴らしさを体験していただき、心に残る思い出をたくさん作っていただきたいと思います。

ミズーリ通信

(ミズーリ担当：ライマン・ピットマン)

【たかが一般教養科目、されど一般教養科目】JAAC ミズーリ事務局には、JAAC 生の一人が造った女性の頭部の陶磁彫像があり、興味をそそられます。興味深いのは、この彫像が一般教養の授業で造られた作品だということです。一般教養の授業と言えば、全学生が必須で取らなくてはならない授業で、学生達からは“無駄な授業”と文句を言われているあの授業のことです。この彫像を造ったのは経営学専攻の男子学生で、彼にしてみればどれだけの芸術的才能が彼にあったのかを知る由も無かったことでしょう。

私は学生の就学・生活記録をつけていることから、特に最近、この必須の一般教養科目の授業について心に留める点があるんです。それは、“教養のある人は自分の専門分野の知識に加えて、他にも広い視野による一般的な教養を身につけている”という信念の下に実践されている、ある意味ではアメリカの教育システムの良い点であるということです。

私自身の場合は、すぐにその価値を見出さないような、自分の専門外の一般教養科目を取っていました。英語専攻の学生として経済学にはほとんど興味がなく、楽しみながら経済の授業を取っていたということはありませんでした。今は大人になって、その時の授業が社会で大切なことを私に教えてくれたのだと嬉しく思い始めています。

彫像を造った学生のように、自分自身の持つ何らかの才能をすぐに見出すことができたり、あるいは一般教養から学んだ何らかの知識が、長い時を経た後で役立つたりしても、他の人が興味を持つ分野について学ぶことは、我々にとって決して損はないものなのです。そして、それは時として私達の能力を向上させるものでもあるのです。

【編集後記】経営破綻に追い込まれた JAL もどうやらアメリカン航空との提携を維持して、国際航空連合「ワンワールド」にとどまるようだ。今後、3年間の間に15,000人の人員削減を行うと言う。これからも世界の空を飛ぶ日本の翼であってほしいと願う●「品質の TOYOTA」が世界中でプリウスとレクサスを中心にリコールを申請した。アメリカでも公聴会が開かれる。アメリカにとっては“日本車潰し”をする絶好の機会となるだろう▼2010年冬季オリンピックがカナダのバンクーバーで始まった。期待していた女子モーグル・スキーの上村愛子選手にはメダルを取らせなかったなあ。次のオリンピックで必ずメダルを取らせてあげたい。頑張れ、ニッポン!! ■就職活動をしている皆さん、最後まで諦めないでくださいね。(照井)

Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

▲新型インフルエンザ (インフルエンザ A (H1N1)) における注意喚起の継続：日本とアメリカでの患者数が徐々に減少し始めました。また、世界保健機関 (WHO) は新型インフルエンザの世界的大流行 (パンデミック) の最盛期を過ぎたかどうかの検討を始めていますが、皆さんには引き続きご注意をお願いしたいと思います。今の季節は風邪をひきやすく、体調を崩しやすい時期でもあります。栄養、睡眠、休養をバランス良く取るように心がけましょう。

★JAAC だより今月号についてのお知らせ：編集上の都合により、「ちょっと一休み」と「Help Line」の掲載をお休みいたしました。次号ではまた新しい題材を皆さんにお届けしたいと思います。

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

◎ JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ◎カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp